

「千三百年の白山信仰の美く白鳥町長滝・瀧宝殿の仏たち」

りゅうほうてん

今年の白山開山1300年祭の関連特集として、前号から白山信仰に関する市内の博物館展示をご紹介します。今回の特集で取り上げるのは、白鳥町長滝の瀧宝殿です。長滝の境内にひっそりとたたずむ瀧宝殿を訪れた人は少ないかも知れませんが、国の重要文化財を中心に美術工芸品を一般に公開しています。長滝の長瀧寺、阿名院、長滝白山神社の美術的価値が高い仏像などの彫刻を見学できる希少な展示施設です。ここでは瀧宝殿の見どころをご紹介します。

美濃禪定の拠点だった長滝

瀧宝殿がある長良川の源流近く、奥美濃の峰々に抱かれる長滝は、古くから白山信仰の霊地として栄えました。多くの堂塔をもった大寺院の跡をとどめる広い境内からは、悠久の歴史が感じられます。奈良時代の高僧・泰澄大師は養老元年（717）に白山を開山した際に、この地に社を造営したと伝わっていますが、それが今の長瀧寺や長滝白山神社などの始まりです。その後の天長9年（832）には、この長滝の地に美濃馬場が開かれ、白山へ至る美濃禪定の拠点として栄えていったのです。



▲霊峰白山開山の祖・泰澄大師



▲今は失われた三重塔にあったとされる木造釈迦三尊像



▲表現の技巧と多彩な文様が素晴らしい南都仏師作の木造四天王立像



▲長瀧寺所蔵一切経の守護神と伝わる木造韋駄天立像



▲木造善財童子立像

鎌倉時代の一流仏師による仏像彫刻

長滝境内の参詣道の石段を上がると、右手に現代風の社寺建築を模した建物がみえますが、それが瀧宝殿です。長滝は明治32年（1899）に境内の堂宇をほとんど焼失しましたが、幸いにも難を逃れた宝物の数々が瀧宝殿に伝わっています。瀧宝殿の展示品で際立つのは、鎌倉時代後期の13〜14世紀の作になる木造釈迦三尊像と木造四天王立像です。このうち木造釈迦三尊像はいずれも端正な顔立ちで、穏やかな表情が印象的です。運慶や快慶で有名な慶派の一流仏師による、鎌倉時代後期の洗

練された秀作です。また、木造四天王立像は東西南北を守護する四神ですが、これも慶派仏師の手による作とみられています。こちらは木造釈迦三尊像と違つて四神ともに堂々として力強く、怒りの感情をあらわにした迫力と今にも動き出しそうな躍動感、圧倒的な存在感があります。これらの洗練された仏像からは、13〜14世紀の長滝一山が本山の比叡山延暦寺の天台別院として京都と文化の深い繋がりがあったことがわかります。海を渡って来た経典と仏像

瀧宝殿の展示品で異色なのは、中国から請来された経典と仏像です。上海より西の浙江省湖州で、中国の南宋時代（1127〜1279）に印刷・刊行

された一切経3752帖が長瀧寺に伝存しています。上海より南の港湾都市の寧波から海を経て、はるばる日本へもたらされたと考えられています。伝来した経緯はわかりませんが、応永3年（1396）に長滝一山で経典と経箱を整理した記録が残っていることから、この頃すでに一切経が長滝に納められていたことがわかります。また、長瀧寺所蔵の南宋彫刻の木造韋駄天立像と木造善財童子立像は、これらの一切経とともに海を渡って来たと考えられています。瀧宝殿では、このほかにも美濃馬場ゆかりの白山信仰の遺宝を公開していますので、ぜひ長滝まで足を延ばしてみてください。

「瀧宝殿」のご案内

開館時間 午前9時～午後4時（火曜日・冬期は休館）
 場所 郡上市白鳥町長滝91 長滝白山神社・長瀧寺境内
 入館料 瀧宝殿／大人310円 小中学生200円
 白山文化博物館共通券／大人520円 小中学生250円
 お問い合わせ 白山文化博物館 ☎85-2663
 教育委員会社会教育課 ☎67-1128

